

# 第3学年 音楽科学習指導案

日時 平成31年2月1日(金) 6校時  
学級 第3学年2組 24名  
指導者 金田 美奈子

- 1 題材名 「パートの役わりを生かして、えんそうしよう」
- 2 題材の目標 旋律のかけ合いや重なりを捉えた表現を工夫し、声部の役割を生かして演奏する。  
〔共通事項〕 ア (7)旋律 リズム 音の重なり

### 3 児童の実態と題材設定の理由

第3学年の児童は、第2学年から専科が担当している。今年度は、常時活動として学級の時間に歌ったりダンスをしたりしており、学校生活の中で様々な楽曲と親しんでいる学年である。

旋律を合わせる器楽の学習としては、第2学年の時に、「汽車は走る」を経験している。この題材では、まず「出発」(チャイコフスキー作曲)を汽車が走る様子を想像しながら鑑賞してから歌と木琴のオスティナート、鍵盤ハーモニカのオスティナートをそれぞれ演奏し、最後に汽車が走る様子を想像しながら速度を工夫して3つの声部を合わせて演奏した。また、今年度は、リコーダー教材の「レッツゴー ソーレー」で、同じリズムを違う音で重ねたり、交互に1音ずつ演奏したりすることで一つの旋律になるという演奏を経験した。

このように、拍の流れにのって旋律を重ねる経験は積み重ねてきているが、互いの旋律の動きを聴き合いながら旋律と旋律を重ねて演奏する経験はしていない。また、低音と旋律を重ねて合奏する経験もまだしていない。

そこで、本題材では児童が旋律のかけ合いや重なりを感じ取り、声部の役割を生かして演奏することができるようになることをねらいとし、旋律を交互に演奏することによるかけ合いの面白さや、低音の響きに支えられて旋律と旋律が重なることによるよさや美しさを感じ取りながら合奏することができるような題材構成とする。また、次期学習指導要領解説(音楽編)では、改訂の基本的な考え方として「音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図る。」と明記されている。そこで本題材では、声部の役割を理解し、旋律のかけ合いや重なりを生かした演奏を工夫する能力を育成するために、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションの場면을計画的に設定する。このことにより、児童が音楽の特徴から工夫の手掛かりを見だし、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら学ぶ中で、音楽表現の工夫をすることができるようにしていく。

### 4 教材

「聖者の行進」

「聖者の行進」(When The Saints Go Marching In)は、スピリチュアルの一つで、ディキシ-ランド・ジャズのナンバーでもある。元々は、アメリカ合衆国の葬儀の際に演奏された曲である。ニューオーリンズでは、埋葬が終わると、この曲でパレードをする習慣がある。教科書教材の編曲は、主な旋律と副次的な旋律と低音で構成されている。また、旋律は「ソラシドレ」の5音で構成されており、その中でも「ソ」「シ」「ド」「レ」の4音が多用されているため、演奏が比較的容易である。

5 題材の評価規準

	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能
題材の 評価規準	旋律のかけ合いや重なりに関心を持ち、進んで取り組もうとしている。 【関一①器楽】	旋律のかけ合いや重なりによる音楽の構造を知覚・感受している。 【創一①器楽】 声部の役割や特徴を生かすために、どのように演奏するかについて、自分の考えや願い、意図をもっている。 【創一②器楽】	範奏を聴いたり楽譜を見たりしながら、旋律をリコーダーで演奏している。【技一①器楽】 他の声部や伴奏を聴きながら、自分の声部を演奏している。 【技一②器楽】

6 題材の指導計画 (全5時間)

時	○主な学習内容 ・主な学習活動	☆教師の支援 ◆評価【評価方法】
	<ねらい>旋律のかけ合いや重なりによる曲想と音楽の構造とのかかわりに関心をもつ。	
1	<p>○曲想の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かしながらディキシーランド・ジャズの「聖者の行進」を聴く。</li> <li>・教科書教材の「せいじゃの行進」を聴いて、曲想と旋律のかけ合いや重なりによる音楽の構造とのかかわりについて、気付いたことや感じたことを話し合う。</li> <li>・旋律①と旋律②の最初のかげ合いを、タンギング奏で歌う。</li> </ul> <p>○旋律の歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「せいじゃの行進」の旋律①を、体を動かしたりハンドサインをしたりしながら歌詞で歌う。</li> <li>・タンギング奏で斉唱する。</li> </ul> <p>○範奏の聴取と階名唱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の流れを感じながら旋律①を読譜し、階名で歌う。</li> <li>・「せいじゃの行進」の最初のモチーフを、リコーダーで斉奏したりかけ合いで演奏したりする。</li> </ul> <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と旋律のかけ合いについて気付いたことをまとめる。</li> </ul>	<p>☆裏拍の効果を知覚・感受することができるように、体を動かす活動をしながら聴く活動を設定する。</p> <p>☆児童の意識が旋律に向くように、主な旋律を口ずさみながら活動するよう助言する。</p> <p>☆曲想と旋律のかけ合いや重なりとのかかわりについて、児童自身が実感することができるようにする。</p> <p>☆曲想を感じながら旋律の動きを確認することができるよう、タンギング奏で歌う活動を取り入れる。</p> <p>☆音楽の流れを感じながら旋律①を歌うことができるようにするために、体を動かす活動をしながら歌詞で歌う活動を設定する。</p> <p>☆旋律のリズムや音の長さ、高さを意識して歌うことができるようにするために、ハンドサインをしながら歌う活動を設定する。</p> <p>☆曲想に合った演奏ができるような指揮をする。</p> <p>◆旋律のかけ合いや重なりに関心を持ち、進んで取り組もうとしている。 【関一① 演奏表現・学習カード】</p>

<ねらい> 範奏を聴いたり楽譜を見たりしながら、旋律をリコーダーで演奏する。		
2	<p>○ 範奏の聴取と旋律の演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「せい者の行進」の旋律①を、リコーダーで演奏する。</li> <li>・ 曲想について、考えを出し合う。</li> <li>・ 旋律の音の長さ、音の高さ、リズムと音楽の仕組みと曲想とのかかわりについて、気付いたことや感じたことを話し合う。</li> <li>・ もう一度、旋律①を練習する。</li> <li>・ 全員で合わせる。</li> </ul> <p>・ 音楽の流れを感じながら、旋律②を読譜する。</p> <p>・ 旋律②の範奏を聴き、リコーダーで演奏する。</p> <p>○ 振り返りをする。</p>	<p>☆ 曲想として感じ取ったことが、音楽のどのような根拠から生み出されているのかを確認する。</p> <p>☆ 意見として出された部分を、歌ったりリコーダーで演奏したりして確かめる場を設定する。</p> <p>☆ 音楽の構造について共有したり感じ取ったりしたことに共感するなどの学びの場を設定する。</p> <p>☆ 旋律のリズムやモチーフの反復等、演奏を通して気付いたことを言葉で表す場を設定する。</p> <p>☆ 旋律やリズム、音符の長さや休符などを正確に演奏するよう個別に指導する。</p> <p>☆ フレーズのまとまりが分かるように色で囲む。</p> <p>◆ 範奏を聴いたり楽譜を見たりしながら、旋律をリコーダーで演奏している。</p> <p style="text-align: right;">【技-①器楽 演奏表現】</p>
<ねらい> 旋律のかけ合いや重なりによる音楽の構造を知覚・感受する。		
3 本 時	<p>○ 旋律のかけ合いや重なりを知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旋律①と旋律②をリコーダーで演奏する。</li> <li>・ 旋律①の範奏を聴きながら旋律②を歌う。</li> <li>・ 前半の部分で、2つの旋律がどのような重なり方になるのかを全体で考える。</li> </ul> <p>○ 音楽の構造を知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽の流れを感じながらグループで旋律①と旋律②を合わせて演奏する。</li> <li>・ 曲の後半部分がどのような重なり方になっているのかについて演奏をしながらグループで考える。</li> </ul> <p>○ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旋律①と旋律②のかけ合いや重なりによるよさや面白さについて気付いたことをまとめる。</li> </ul>	<p>☆ 音楽の流れを感じながら旋律を演奏するよう助言する。</p> <p>☆ 旋律の重なり方がどのようなになっているのかを知覚・感受するために、前半のかけ合いの部分を取り出し、2つの声部に分かれて演奏する活動を設定する。</p> <p>☆ 旋律のかけ合いや重なりを知覚・感受を深めるために、互いの演奏を聴き合う場を設定する。</p> <p>☆ 音楽の流れを感じながら練習をすることができるようキーボードで拍を流しておく。</p> <p>☆ グループの活動では、旋律のかけ合いや重なりを知覚・感受が深まるような活動の仕方を工夫するよう助言する。</p> <p>☆ 旋律のかけ合いや重なりによって、曲想がどのようなになっているのかを言葉で交流するよう助言する。</p> <p>◆ 旋律のかけ合いや重なりによる音楽の構造を知覚・感受している。</p> <p style="text-align: right;">【創-①器楽 演奏表現・学習カード】</p>

<ねらい>低音部を加えた3つの旋律の重なりによる音楽の構造を知覚・感受する。		
4	<p>○旋律のかけ合いや重なりを捉えた表現の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律①と旋律②を合わせて演奏する。</li> </ul> <p>○3つの旋律の重なりを知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律①と旋律②の流れを感じながら、低音パートの階名を読譜する。</li> <li>・旋律の演奏を聴きながら、低音パートを階名唱する。</li> <li>・全員で3つの声部に分かれて合奏する。</li> </ul> <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声部の役割について感じたことや分かったことをまとめる。</li> </ul>	<p>☆互いの演奏をよく聴き、曲想に合った演奏の仕方をするよう助言する。</p> <p>☆音楽の流れを感じながら読譜をするよう助言する。</p> <p>☆3つの声部の役割を意識することができるように、他の声部の演奏を聴きながら自分の声部を口ずさんだり、一部分を取り上げ、旋律①と旋律②を声部ごとに演奏したり組合せて演奏したりする活動を設定する。</p> <p>◆他の声部や伴奏を聴きながら、自分の声部を演奏している。</p> <p><b>【技一②器楽 演奏表現】</b></p>
<ねらい>旋律のかけ合いや重なりや、声部の役割についてまとめる。		
5	<p>○声部の役割を生かした演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「せい者の行進」2グループに分かれて合奏する。</li> <li>・「せい者の行進」を全員で合奏する。</li> </ul> <p>○旋律のかけ合いや重なり、声部の役割の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律のかけ合いや重なり、声部の役割について触れながら、今回の学習で気付いたことや分かったことをまとめる。</li> </ul>	<p>☆他の声部を聴きながら演奏するよう助言する。</p> <p>☆学級を2つのグループに分け、互いに聴き合い気付いたことを交流する場を設定する。</p> <p>◆声部の役割や特徴を生かすために、どのように演奏するかについて、自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p><b>【創一②器楽 演奏表現・学習カード】</b></p>

7 本時の学習(3 / 5時間)

(1)ねらい 旋律のかけ合いや重なりによる音楽の構造を知覚・感受する。

(2)学習の展開

○学習内容	・学習活動	☆教師の支援 ◆評価【評価方法】
○学習のめあての確認		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     せんりつのかげ合いや重なりを感じ取ろう。                 </div>	
○旋律のかけ合いや重なりを知覚・感受  ・旋律①と旋律②をリコーダーで演奏する。  ・旋律①の範奏を聴きながら旋律②を歌う。  ・前半の部分で、2つの旋律がどのような重なり方になるのかを全体で考える。		☆音楽の流れを感じながら旋律を演奏するよう助言する。  ☆旋律のかけ合いや重なりが分かりやすくなるように、デジタル教科書の音源を活用する。  ☆旋律の重なり方がどのようなになっているのかを知覚・感受するために、前半のかけ合いの部分を取り出し、2つの声部に分かれて演奏する活動を設定する。
○音楽の構造の知覚・感受  ・音楽の流れを感じながらグループで旋律①と旋律②を合わせて演奏する。  ・曲の後半部分がどのような重なり方になっているのかについて、演奏をしながらグループで考える。		☆旋律のかけ合いや重なりを知覚・感受を深めるために、互いの演奏を聴き合う場を設定する。  ☆音楽の流れを感じながら練習をできるようにキーボードで拍を流しておく。  ☆グループの活動では、互いに聴き合うなどして、旋律のかけ合いや重なりを知覚・感受が深まるような活動の仕方を工夫するよう助言する。  ☆旋律のかけ合いや重なりによって、曲想がどのようなになっているのかを言葉で交流するよう助言する。 ◆旋律のかけ合いや重なりによる音楽の構造を知覚・感受している。 【創一①器楽 演奏表現・学習カード】
○振り返り ・旋律①と旋律②のかけ合いや重なりによるよさや面白さについて気付いたことをまとめる。		

